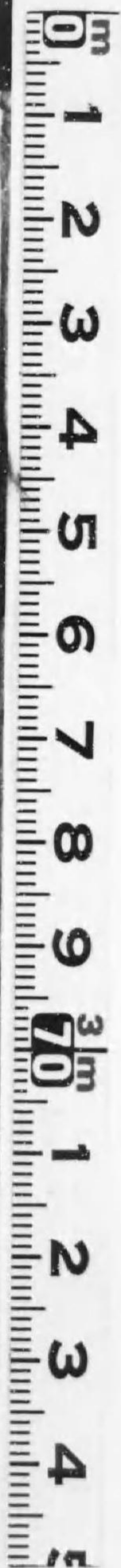


事物訓蒙圖彙

特 111

188



始



特 111
188

例言



本書は吉田半兵衛の画作として世に名高きものなり。上中下三巻あるも、中下の二巻は公刊出来ざる書なり。文言また憚る節多ければ上巻の画図而已に止めたり。無論本書も價値は上巻の画図にあれば、他は措いて問はず亦可なり。再版本に「好色」を「好物」と冠せらるものカ。種彦の「好色本目錄」には左の如く言へり。

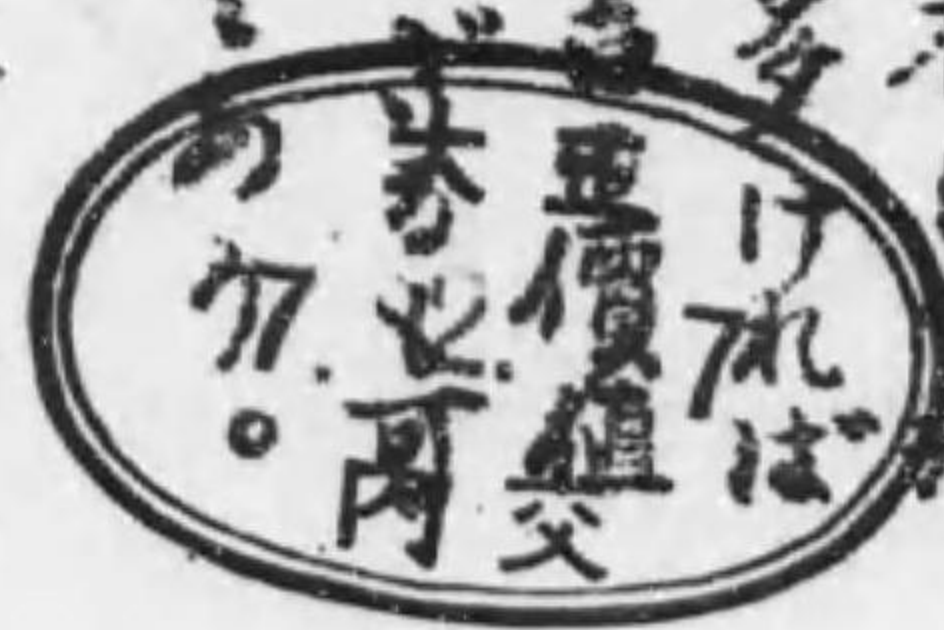
好色訓蒙図彙

繪入小本三冊

貞享二年と

吉田半兵衛画作なり。遊女、手かけ、娘など、其姿繪を書き、ことわけを書きたるものなり。

此書元禄以前のものなり。さらば元禄九年の



印本『小柴垣』といへる書に、これほど合点の行
かぬことぞと思案して見れば、夫よ好色ま
もうづぬと外題して、口門の品々書たる本あり。
これにて謎が解けたと見えたり。『小柴垣』に此
書を引たるを見るに、此書は元禄以前、寛文
頃の刊本と知るべしなり。
〔補註〕葩雪曰、序に洛下の野人作書、無色軒
三白居士自序とあり。又末尾に、貞享三年丙
寅後弥生吉日、花洛銅駄坊、三右衛門、高辻、
昆陽軒板とあり。此書後に再版せしなるべし。

人倫

奥 振



敷その



妻 妾 座 直



子 媳



史シ太タ城シ傾キ



大タ臣シ 大タ臣シ



契り化け 端しん



格くわ子し 神かみ 天てん



櫛 鹿 鹿



向 北



湯ゆ 娜な 物もの 袋ふくろ



夜や 半はん



丸ま女め 尾に女に比ひ



屋や 茶ちや



鼻^{はな}口^{くち}置^{おき}人^{ひと}



夜^よ發^{はつ}賣^う女^{にょ} 想^{おも}と^と女^{にょ} 嫁^{よめ} 想^{おも}



1179
288

合あひ出で

釣つり者もの



大正七年二月廿五日印刷
大正七年二月廿八日發行

東京市下谷區谷中御首町二丁目三十八番地
編輯發行
印刷人 越前源五郎

發行所 珍書保存會
振替口座東京三七〇二三番

終

